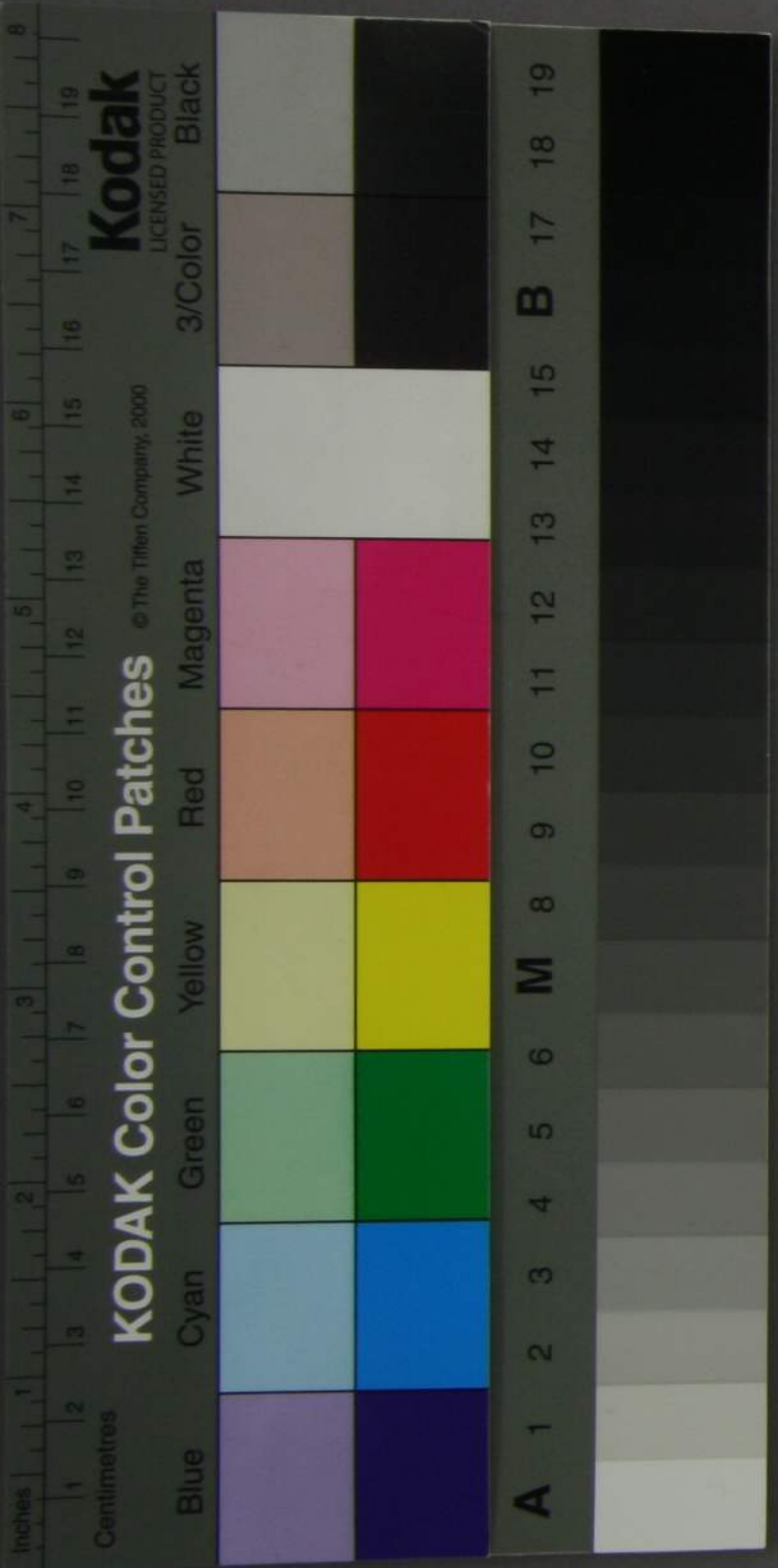


414
A 2692
3



精神ナリシヲ以テ明治十五年十二月廿八
号請願規則ハ廢止セラルヘキ筈ナリシナリ
然ルニ委員會ニ於テハ請願ヲ以テ悉ク有式請
願トスルノ不可ヲ認メ請願ハ必ス法律勅令ニ
許ルシタルモノニ限ルノ方針ヲ取リ於是同
シク之ヲ請願ト称スト虽原案ノ請願ト委員修
正ノ請願トハ大ニ其ノ意義ヲ異ニスルニ至
レ

大隈



リ何ントナレハ原案ニ於テ許願ト称スルハ凡
テ行政廳ニ就テ為ス所ノ請願ヲ指スモ修正案
ニ於テ許願ト称スルハ行政廳ニ就テ為ス請願
中ノ或ル一種ニ限ルモノトナリタレハナリ而
シテ許願法ハ獨リ此ノ一種ノ請願ニ關スル法
規トナリタルニ因リ委員會ニ於テハ原案最後
ノ一條ヲ削除シテ別ニ一版ニ行政廳ニ就テナ
ス請願ノ規程ヲ存スルノ必要ヲ認メタリ
然レトモ委員會ノ主意タル明治十五年ノ請願
規則ヲ以テ直ニ之ニ充ツヘシトシタルニハア

ラ十五年ノ請願規則ハ憲法未ダ制定ニ至ラ
ス許願ノ制モ亦之ヲキノ時ニ布カレタルモノ
ナルカ故ニ之ヲ今日ヨリ見ルトキハ或ハ抽釐
齟齬スル所ナシトセス宜シク更ニ審査ヲ遂ケ
修補スヘキトキハ修補ニ改正スヘキトキハ改
正スヘシト之ヲニアリ
依テ右委員會ノ決議ノ旨ニ從ヒ憲法ニ照ラシ
許願法修正ノ方針ヲ遂ヒ十五年ノ請願規則ヲ
參酌ニ別冊行政請願規則ヲ起草シ電覽ニ供ス
之ヲ行政請願規則トシタル所以ノモノハ其ノ

全ク行政廳ニ就テ為ス請願ノ為ノ規則ニシテ
陛下ニ奉呈シ並ニ帝國議會ニ呈出スル請願ハ
此ノ規則ノ関スル所ニアラサレハナリ
此ノ案章ニ採納ヲ得ハ其ノ之ヲ請願法修正ノ
結果トシテ本院ヨリ直ニ上奏セラルヘキカ將
ク内閣ノ起草トシテ更ニ諮詢ニ附セラルヘキ
候ツヘキカハ尙高慮ヲ乞フ頓首

書記官長伊東巳代洛

行政請願規則草案

勅令第 号

行政請願規則

第一條 行政廳ニ請願スル者ハ左ノ規程ニ依

ルハシ

第二條

請願、其ノ事件ノ主務ニ當ル最下級行政廳ニ之ヲ為スヘシ

最下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者ニ其ノ事件ニ付仍上級行政廳ニ請願ヲ為スコトヲ得
内閣直轄ノ事件ニ付テハ内閣、其ノ他ノ事件ニ付テハ各省ヲ以テ行政廳ニ請願スルノ
最高等次トス

第三條 請願ハ文書ヲ以テ之ヲ為シ郵便ヲ以
テ差出スヘシ行政廳ノ求ニ應シテ口陳スル
ハ其ノ限ニ在ラス

第四條

請願書、其、請願ノ要点及請願人ノ
身分職業住所年齡ヲ記載シ署名捺印スヘシ
連名ヲ以テ請願スル者、各、其、身分職業住
所年齡ヲ記載シ署名捺印スヘシ

第五條 多数ノ人員共同ニテ請願スルトキハ
各請願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ之ニ
署名捺印シ其ノ中ヨリ三名以下ノ總代ヲ撰
ミ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ証
明スヘシ
法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名
ヲ以テ請願スルコトヲ得

第六條 上级行政廳ニ差出ス請願書ニハ其ノ
經歷ニタル所ノ行政廳ノ指令書ヲ添フヘシ

第七條 請願ハオ十條及オ十三條ニ依リ却下
スヘキモノヲ除ク外 案ヲ指令ヲ為スヘキモ
ノトス

第八條 請願書、郵達ニ接シタル行政廳若其
ノ主務ニ非サルトキハ直ニ之ヲ主務ノ行政
廳ニ移シ其ノ由ヲ請願人ニ通知スヘシ

第九條

請願ノ等次ヲ尽シタルモノ並ニ許願
又ハ行政裁判ヲ經タルモノハ其ノ事件ニ付
更ニ行政廳ニ請願スルコトヲ得ス

第十條 請願書、郵達ニ接シタル行政廳ニ於
テ其ノ事件行政訴訟又ハ請願ヲ提起シ得ハ
キモノナリト認ムルトキハ其ノ旨ヲ記シテ
請願書ヲ却下スヘシ

第十一條
請願書、案テ哀願ノ体式ヲ用ケル

第十二條 請願書ハ侮辱誹毀ニ涉ルヲ得ス

第十三條 請願人第二條、等次ヲ經ス及第三
條第四條第五條第六條第九條第十條第十
二條、規程ニ從ハサルモ、ハ却下スヘシ

第十四條 此ノ勅令ハ

年 月 日

ヨリ施行ス

明治十五年十二月第五十八号布告請願規則
ハ此ノ勅令施行ノ日ヨリ廢止ス

